

「安全な歩き方」 ～OODAループで考えよう～

1. 学年・組 2年南組 33名

2. 目指す子供の姿

友達と交流する価値を見出し、学級全体で自己肯定感と自己有用感を高めながら積極的に自分の意見や考えを発信して更新しようとする子供

3. 本時における「子供とつくる学び」 4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

子供と学びをつくるための本単元における課題は大きく2つあると考える。

まず1つは、「わかっているけどできない」から「わかっているからできる」という行動変容のハードルの高さである。「2列になって歩きなさい」や「車道から離れて歩きなさい」など、子供は学校で指導された歩き方のルールを知っている。しかし、登下校において、子供がルールを守ることができていない実態がしばしば見受けられる。安全な歩き方を守ろうとする行動変容を促すためには、「なぜルールを守らなければならないのか」と「ルールを守るためにどうしたらよいのか」を子供が納得した上で正しく理解する必要がある。子供が「これなら守れる・守りたい」と思えるように、教師と子供と一緒に考えていく学びの営みを「子供とつくる学び」と考える。

もう1つが、子供は大人よりも視野が狭く、経験も不足しているからこそ、周囲からの情報をより意識的に得なければならないことである。何気なく「見る」のではなく、意識して「みる」ことができるようになることで、より安全な歩き方につながると考える。なお、ここでいう「みる」とは、「観る」という意味が大きいですが、それだけではない。視覚以外にも聴覚や嗅覚などもフル稼働させて周囲からの情報や状況を汲み取るために注意深く観察することを「みる」としている。

本時で「子供とつくる学び」を実現するために、2つの手立てを挙げる。

1つ目は、「指差呼称」という「みる」ことの重要性が非常にわかりやすい資料を用意することである。「安全な歩き方」とは何かを子供は前時までに学習している。本時では、そこからもう1歩踏みこんで「みる」ことに特化して授業を行う。「みる」と「見る」の違いを考えやすくすることで、子供たちが、「みる」ことの重要性をつかみやすくする。

2つ目は、自分事として考えられるように、あえて一度実践が難しいことを提案することである。登下校中に「みる」ことを実践するにはどうすればいいのかを考える際、「指差呼称」という日常で実際に行うことが難しいものを行うように促すと、子供は「できない」と正直に思うだろう。そこで、「どのようにしたらよいか」と問うことで、初めて「自分事」となる。指導されたルールを守らせるだけでなく、自分でできることを考えることが、行動変容を促す上で大切である。

5. 教材について

本単元では、歩行者の立場から安全な歩き方について理解を深めていく。本校の子供の登下校の様子は広がって歩いたり、おしゃべりに夢中になって周りをよく見ないで歩いたりする姿がよく見られる。粘り強く指導するものの、なかなか行動変容にはつながらない。とはいえ、歩行中の事故による年齢別の死傷者数では6歳から8歳、つまり低学年の子供が非常に多いことから、中・長期的な行動変容を期待する一方で、短期的な行動変容も促す必要がある。

また、安全教育は常に予想不可能な場面に遭遇することを想定しなければならない。学校で学んだ状況に出会うわけではないからである。だからこそ、臨機応変に行動する必要があるのだが、臨機応変に行動しましょうと指導するだけでは、子供たちの行動変容は期待できない。

そこで、「OODAループ」(ウーダループ)という、近年注目される意思決定スキルを安全科で身に付けることを提案したい。OODAループは、「柔軟に対応し、的確に即断即決・実行するためのフレームワーク」であり、PDCAサイクルとは大きく異なる。PDCAサイクルのような業務改善目的ではなく、はっきりとした工程のない物事に対して、刻一刻と変化していく状況のなかでベストな判断を下し、すぐに行動に移すことを目的としている。「OODAループ」とは、「O:Observe (見る)」「O:Orient (わかる)」「D:Decide (きめる)」「A:Act (うごく)」の4つを指すが、これは一般的な意思決定の思考の流れと基本的には同じである。しかし、「OODAループ」は、その思考を意識化する点が異なる。想定外の事態でも瞬時に判断して行動できることを目的とするところは、安全科との親和性が高いといえるだろう。ただし、本単元では、「OODAループ」という用語などを教えるのではなく、低学年では「みる」重要性を理解することを目標とする。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全に歩くために必要なルールを正しく理解している。	安全な歩き方を実践する上で、「みる」ことを意識するためにはどうすればよいか考えている。	駅から学校までの道中から、危険な場所を探している。「みる」ことを意識することで、安全な歩き方を実践しようとしている。

7. 単元計画

次	時	内容
1	1	駅から学校までの道を歩き、歩いているときに危険なところを探す。
	2	見つけた危険なところから、安全な歩き方とは何か考える。
	3	「みる」ことを意識して、より安全に歩く方法を考える。★本時

8. 本時の目標

「みる」ことを意識するために、どうすればよいか考えることができる。【思考・判断・表現】

9. 本時の展開

